



## 2024年6月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年11月10日

上場会社名 株式会社総医研ホールディングス  
コード番号 2385 URL <http://www.soiken.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石神 賢太郎

問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 奥野 貴人

TEL 06-6871-8888

四半期報告書提出予定日 2023年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年6月期第1四半期の連結業績(2023年7月1日～2023年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年6月期第1四半期	1,124	49.3	501		496		527	
2023年6月期第1四半期	2,216	13.3	45	27.7	46	57.6	13	83.4

(注) 包括利益 2024年6月期第1四半期 527百万円 ( %) 2023年6月期第1四半期 15百万円 ( 81.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年6月期第1四半期	20.15	
2023年6月期第1四半期	0.53	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年6月期第1四半期	7,415	6,513	85.1
2023年6月期	8,239	7,172	84.6

(参考) 自己資本 2024年6月期第1四半期 6,310百万円 2023年6月期 6,968百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年6月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年6月期		0.00		5.00	5.00
2024年6月期(予想)		0.00		5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年6月期の連結業績予想(2023年7月1日～2024年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,820	15.6	280	61.4	280	61.5	180	60.2	6.88

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年6月期1Q	26,158,200 株	2023年6月期	26,158,200 株
期末自己株式数	2024年6月期1Q	0 株	2023年6月期	0 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年6月期1Q	26,158,200 株	2023年6月期1Q	26,158,200 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、経済活動は正常化に向かい、景気は緩やかな持ち直しの動きがみられたものの、原材料価格やエネルギー価格高騰や物価の上昇等により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

我が国では、社会の高齢化を背景として医療費の増加が続く中、医療の効率的運営や予防医療の推進が必須の課題となっています。このような状況下、医療の適正かつ効率的な運用を目指す「EBM」(Evidence Based Medicine＝科学的根拠に基づく医療)の気運が高まっているほか、国策としても、メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査・特定保健指導の導入、全ての健康保険組合等における「データヘルス計画」(レセプト等のデータ分析に基づいた保健事業)の策定及び実施の義務付け等が行われています。また、食品等の機能性表示の規制が緩和され、企業責任によりエビデンス(科学的根拠)をもとに食品等に機能性を表示できる機能性表示食品制度が施行される等、当社グループの事業への追い風となり得る環境の変化が生じています。

このような状況下、当社グループでは、大学発のバイオマーカー技術に基づくエビデンスの構築と活用に関する実績やノウハウ、医学界や医療界における幅広いネットワーク等を活かし、医薬、食品、化粧品、ヘルスケア関連サービス等の様々な領域において、社会のニーズに対応した商品やサービスを開発して提供することにより、事業の拡大を図ってまいりたい方針であります。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

#### (生体評価システム)

生体評価システム事業のうち評価試験事業におきましては、当社被験者バンクからの被験者リクルート手数料等13百万円(前年同期比27.3%減)の売上計上を行いました。また、受注状況につきましては、受注高98百万円(前年同期比91.3%増)、当第1四半期連結会計期間末の受注残高は124百万円(前年同期末比23.7%減)となりました。

生体評価システム事業のうち医薬臨床研究支援事業におきましては、主に糖尿病領域の医師主導型臨床研究の支援業務の受託手数料等43百万円(前年同期比38.1%減)の売上計上を行いました。また、受注状況につきましては、受注高18百万円(前年同期比57.3%減)、当第1四半期連結会計期間末の受注残高は63百万円(前年同期末比69.6%減)となりました。

これらの結果、生体評価システム事業の業績は、売上高57百万円(前年同期比35.9%減)、営業損失10百万円(前年同期は12百万円の営業損失)となりました。

#### (ヘルスケアサポート)

ヘルスケアサポート事業は、特定保健指導の受託を中心として、企業における社員の健康管理・増進のニーズや個人の健康意識の高まり等に関連した様々なサービスを健康保険組合等に提供する事業であり、生活習慣病の専門医から成る組織である一般社団法人専門医ヘルスケアネットワークと共同で事業展開しております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、特定保健指導、被扶養者を対象とした特定健康診査のサポート、糖尿病の重症化予防サービス、レセプト解析の受託手数料等157百万円(前年同期比6.6%増)の売上計上を行いました。

また、受注状況につきましては、受注高157百万円(前年同期比6.6%増)、当第1四半期連結会計期間末の受注残高はありませんでした(前年同期末はなし)。なお、この事業の受注高は、主に特定保健指導の実績等に応じて事後的に決まるものでありますので、契約締結時点ではなく、当該実績等が確定した時点で計上しております。

この結果、ヘルスケアサポート事業の業績は、売上高157百万円(前年同期比6.6%増)、営業利益10百万円(前年同期比28.2%減)となりました。

#### (化粧品)

化粧品事業におきましては、通信販売部門の売上高は、広告施策等により挺入れを図ったものの販売の減少傾向が続き、29百万円(前年同期比8.4%減)となりました。一方、卸売部門の売上高は、中国市場向け商品の販売が、福島第一原発処理水の海洋放出を発端とする日本製品の不買運動激化の影響等を受け大幅に減少し、136百万円(前年同期比87.3%減)となりました。

この結果、化粧品事業の業績は、売上高165百万円(前年同期比85.1%減)、営業損失147百万円(前年同期は282百万円の営業利益)となりました。

#### (健康補助食品)

健康補助食品事業におきましては、2009年3月より、「疲労定量化及び抗疲労食薬開発プロジェクト」から生まれた製品である「イミダペプチド」を販売しており、主力の飲料のほか、ソフトカプセル、錠剤等の多種多様な商品ラインナップを有しております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、例年と同様、疲労回復のニーズが高く、広告出稿に対する反応が良好である夏場に合わせて集中的に広告宣伝費を投下し、販売の一層の拡大を図りました。これにより新規顧客の獲得数は前年同期を上回りましたが、広告料の高騰等により広告効率が悪化したこと等から販売量が減少し、売上高は前年同期及び計画ともに下回りました。当第1四半期連結累計期間の業績は、広告宣伝費の投下並びに初回購入

者に対する割引及び送料無料の適用等により売上高に比して費用が先行した形となり、営業損失を計上しましたが、当第1四半期連結累計期間に先行した費用については、第2四半期連結会計期間以降はリピート購入により回収され、利益に寄与する見通しであります。

この結果、健康補助食品事業の業績は、売上高676百万円（前年同期比7.6%減）、営業損失は267百万円（前年同期は184百万円の営業損失）となりました。

（機能性素材開発）

機能性素材開発事業におきましては、ラクトフェリンをはじめとする機能性素材の開発、販売及び技術供与等を行っており、ラクトフェリン原料の販売、ラクトフェリン等を配合した健康補助食品のOEM供給等による売上を計上しております。

当第1四半期連結累計期間においては、ラクトフェリン等を配合したサブリの販売が好調な一方で、原料の販売数量が伸び悩んだこと等から、売上高が減少しました。

この結果、機能性素材開発事業の業績は、売上高67百万円（前年同期比51.0%減）、営業損失は7百万円（前年同期は22百万円の営業利益）となりました。

これらに加えまして、セグメント間取引の消去や全社費用による営業損失は78百万円（前年同期は77百万円の営業損失）となりましたので、当第1四半期連結累計期間の連結売上高は1,124百万円（前年同期比49.3%減）、連結営業損失は501百万円（前年同期は営業利益45百万円）、連結経常損失は496百万円（前年同期は経常利益46百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は527百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益13百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて824百万円減少（10.0%減）し、7,415百万円となりました。これは主に、その他流動資産が97百万円、原材料及び貯蔵品が34百万円それぞれ増加したものの、現金及び預金が881百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が40百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末に比べて165百万円減少（15.5%減）し、902百万円となりました。これは主に、その他流動負債が101百万円増加したものの、買掛金が249百万円、未払法人税等が41百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べて658百万円減少（9.2%減）し、6,513百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失527百万円の計上や、配当金の支払により利益剰余金が130百万円減少したこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績は、化粧品事業において「モイストクリームマスクPro.」を中心とする中国市場向け商品の販売が、福島第一原発処理水の海洋放出を発端とする日本製品の不買運動激化の影響等により計画未達となったこと等から、全体として計画を下回る進捗となりました。

2024年6月期の通期連結業績予想につきましては、現時点においては、今後の経済情勢の市況に与える影響が不透明であることから、2023年8月16日に「2023年6月期決算短信」で公表いたしました業績予想数値を据え置くことといたします。

なお、今後連結業績予想に修正の必要が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,945,854	5,064,253
受取手形、売掛金及び契約資産	414,621	373,854
商品	815,853	820,782
仕掛品	161,009	152,466
原材料及び貯蔵品	319,243	353,834
その他	312,650	410,349
貸倒引当金	△35	△17
流動資産合計	7,969,196	7,175,523
固定資産		
有形固定資産	52,041	50,968
無形固定資産		
その他	46,586	46,395
無形固定資産合計	46,586	46,395
投資その他の資産		
投資有価証券	20,738	20,738
その他	151,419	121,912
投資その他の資産合計	172,157	142,650
固定資産合計	270,785	240,015
資産合計	8,239,982	7,415,538
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	407,707	158,677
未払法人税等	43,869	2,392
契約負債	307,374	329,009
受注損失引当金	27,207	27,207
その他	262,880	364,873
流動負債合計	1,049,039	882,159
固定負債		
退職給付に係る負債	18,725	18,440
その他	—	1,481
固定負債合計	18,725	19,921
負債合計	1,067,764	902,081
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,836,587	1,836,587
資本剰余金	1,899,955	1,899,955
利益剰余金	3,232,312	2,574,424
株主資本合計	6,968,855	6,310,967
非支配株主持分	203,362	202,489
純資産合計	7,172,217	6,513,457
負債純資産合計	8,239,982	7,415,538

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
売上高	2,216,881	1,124,626
売上原価	1,160,778	587,927
売上総利益	1,056,102	536,698
販売費及び一般管理費	1,010,156	1,037,729
営業利益又は営業損失(△)	45,946	△501,031
営業外収益		
受取利息	105	28
受取賠償金	143	3,647
その他	820	1,691
営業外収益合計	1,069	5,367
営業外費用		
その他	535	739
営業外費用合計	535	739
経常利益又は経常損失(△)	46,479	△496,402
特別損失		
固定資産売却損	—	134
特別損失合計	—	134
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	46,479	△496,537
法人税、住民税及び事業税	30,022	1,024
法人税等調整額	529	30,407
法人税等合計	30,551	31,431
四半期純利益又は四半期純損失(△)	15,928	△527,969
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	2,186	△873
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	13,741	△527,096

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	15,928	△527,969
四半期包括利益	15,928	△527,969
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,741	△527,096
非支配株主に係る四半期包括利益	2,186	△873

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前題に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	生体評価 システム	ヘルスケア サポート	化粧品	健康補助 食品	機能性素材 開発	計		
売上高								
一時点で移転 される財	28,396	147,686	1,109,694	732,053	137,732	2,155,563	600	2,156,163
一定の期間に わたり移転さ れる財	60,717	—	—	—	—	60,717	—	60,717
顧客との契約 から生じる収 益	89,113	147,686	1,109,694	732,053	137,732	2,216,281	600	2,216,881
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	89,113	147,686	1,109,694	732,053	137,732	2,216,281	600	2,216,881
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	89,113	147,686	1,109,694	732,053	137,732	2,216,281	600	2,216,881
セグメント利益 又は損失（△）	△12,610	15,153	282,401	△184,324	22,552	123,172	△77,225	45,946

（注）1 外部顧客への売上高の調整額600千円は、非連結子会社からの経営指導料等であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△77,225千円には、全社費用△91,325千円、セグメント間取引  
消去13,500千円等が含まれております。なお、全社費用は、主に当社の管理部門の費用等であり  
ます。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	生体評価 システム	ヘルスケア サポート	化粧品	健康補助 食品	機能性素材 開発	計		
売上高								
一時点で移転 される財	16,535	157,441	165,871	676,141	67,426	1,083,416	600	1,084,016
一定の期間に わたり移転さ れる財	40,609	—	—	—	—	40,609	—	40,609
顧客との契約 から生じる収 益	57,145	157,441	165,871	676,141	67,426	1,124,026	600	1,124,626
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	57,145	157,441	165,871	676,141	67,426	1,124,026	600	1,124,626
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	645	3,445	4,091	△4,091	—
計	57,145	157,441	165,871	676,787	70,872	1,128,117	△3,491	1,124,626
セグメント利益 又は損失（△）	△10,972	10,883	△147,774	△267,347	△7,567	△422,779	△78,252	△501,031

(注) 1 外部顧客への売上高の調整額600千円は、非連結子会社からの経営指導料等であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額△78,252千円には、全社費用△92,352千円、セグメント間取引  
消去13,500千円等が含まれております。なお、全社費用は、主に当社の管理部門の費用等であり  
ます。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。